

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
150003	X-21-A-2-150003	1	インターンシップ・学外実習	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	基礎	選択	3年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	基礎	選択	3年
インターンシップ	申 銀珠			【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	選択	3年
				【1-3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

授業目的

就業体験を通じて自己のキャリア実現に向けて主体的に考える力を実践的に学びます。「キャリア開発」「就職ガイダンス」その他の授業の中で習得した知識と、自分自身が積み上げてきた「自己能力」を企業の中で確かめることが出来る良い機会である。実際に企業の中に身を置き、各世代の人々とコミュニケーションを取りながら、社会人として必要な様々な能力や技術に気づき、自己成長に結び付け今後の大学生活に活かしていくことを目的としている。この経験は、今後取り組む就職活動や卒業後の人生設計を考えるうえで非常に役立つものである。

各回の授業内容

<p>第1回 【授】 本授業科目は一般の講義科目や語学科目、演習・実習科目とは異なり、主に夏季休業を利用して平均して1週間程度受入先で就業体験を積む（したがって「各回の授業内容」の記載の仕方も異なる）。体験内容は受入先に応じて異なる。それゆえ、学内で学ぶ「キャリア開発2」の授業が重要になる。実習内容は、ソーシャル・エチケットやマナーおよび民間企業の一般的な組織・業務内容に関するものになる。受講学生は、受入機関について調査し、就業体験の内容と何を学んだかをレポートにまとめる。また就業体験中に作成する実習日誌の書き方もあわせて学ぶ。就業体験を終えた後は、体験内容を「キャリア開発1」もしくは3年次生前期ガイダンスで報告してもらおうことがある。また実習日誌を最終的に仕上げ、大学に提出する。その日誌は受入機関の守秘事項チェックを受ける。指摘された部分があった場合、それを修正して再提出する。以上の後、参加学生が各自受入機関へ礼状を出して、授業が終了する。</p> <p>第1回 インターンシップ希望者面接選考（6月頃を予定）</p>	<p>第9回</p>
<p>第2回 【授】 第2～15回 受入先の就業体験をもって各回の授業に充てる。</p>	<p>第10回</p>
<p>第3回</p>	<p>第11回</p>
<p>第4回</p>	<p>第12回</p>
<p>第5回</p>	<p>第13回</p>
<p>第6回</p>	<p>第14回</p>
<p>第7回</p>	<p>第15回</p>
<p>第8回</p>	<p>第16回 【授】 第16回 試験の代替措置として研修日誌およびレポート（実習報告書）を提出する。</p>

成績評価方法

成績評価は、事前研の出席状況、受け入れ先企業の評価、実習日誌の内容の3点から総合的に判断する。企業からの評価に基づき学生にフィードバックする。尚、受け入れ企業・団体数は限られており、希望者全員が履修できない場合がある。受け入れ企業・団体が決まらなかった場合、履修登録そのものが取り消される（成績上の記録は何も残らない）。ただし、受け入れ先機関が決まった後、事前研修において著しい問題が見られる場合、その段階でD評価がつけられることもある。さらに実習報告書を実習終了後2週間以内に提出しなかった場合、特段の理由がない限りE評価とせず、D評価とする。内容が（誤字脱字も含めて）一定水準以下の場合、同じくD評価となることがある。

教科書・参考書

特になし

受講に当たっての留意事項

就職活動が3月解禁6月選考開始の日程において、多くの企業がこの日程を遵守せず早期に採用をしている。このため、インターンシップを経験しているかどうか就職活動成功のための大きなカギとなる。本学が指定している企業・団体に参加したいところであっても、アルバイトでは経験できない貴重な就業体験を与えてくれるので、下記②の団体・企業も含めて参加することを強く薦める。

また、この授業科目は、3年前期の「キャリア開発2」とインターンシップガイダンスを受講することを前提としているので、ぜひ、「キャリア開発2」を受講してもらいたい。受入企業・団体は、①大学が指定する国内企業・団体、②学生が自ら選び、インターンシップ参加が認められた国内の企業・団体、もしくは③学生自らが選び、インターンシップ参加が認められた海外の企業・団体とする。①については、実習学生を選出（マッチング）する際に希望を確認し、レポートをもとに学内で面接をして決定する。②、③については交通費・渡航費・滞在費等滞り期間中の費用は当該学生がその一切を負担し、本学は一切それを負担しない。また、インターンシップ参加の交渉・斡旋を本学は一切行わず、滞り期間中の安全及び滞在先についても学生自身が自己責任で確保する。参加期間を夏季休業中のみとする。また、②及び③の単位認定に当たっては、①で本学が学生に義務付けているレポート及び実習日誌の提出期限までの提出と、受入企業・団体担当者からの当該学生に関する実習報告書（英語）の提出を条件とする（成績判定はこれまでと同様とする）。これらすべてがそろわない場合には単位を認定しない。

過去の実習日誌はキャリア支援課で随時閲覧できる。まずは先輩の体験に目を通して見るように。受講に当たって迷いがある場合、ぜひ遠慮せずに、担当の教員もしくはキャリア支援課職員に相談してもらいたい。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
○	実務経験をするための講義であり、各回、実務経験者による指導を受ける。	○

学習到達目標

アルバイトでは体験できない様々な就業体験を通じて「働くとはどういうことか」を理解し、志望業界、企業、職種への意識づけが行われ、それを自らの就職活動や今後のキャリア形成につなげることができるようになること。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習